

経鼻生ワクチン「フルミスト®」について

基本情報

- ・ 2才～18才まで（当院では高校3年生まで）
- ・ 注射ではなく、左右の鼻腔に1噴霧ずつ投与
- ・ 全年齢で1回接種
- ・ 接種費用は8,500円

効果

- ・ 世界では約20年前から使用されているワクチンで、効果も実証されています。
- ・ 2018年の研究では3～16才における有効性は78%とされています。
- ・ 注射のワクチンは血液中に免疫を誘導するだけなので、感染を予防するというより、重症化を予防するのが主な目的です。フルミストは鼻粘膜に免疫を誘導するので、感染自体を予防する効果が期待できます。

有効期間

- ・ 約1年と長く、流行の状況に関係なく早めに接種をして流行に備えることができます。

副反応

- ・ 接種後2～8日後に鼻閉・鼻汁・咳・喉の痛みなどの症状が約6割の方に出現します。自然に軽快しますが、この時期に抗原検査を行うと陽性になることがあります。
- ・ 重い全身症状を引き起こすことは、非常に稀とされています。

注意（重要ですので必ず読んでください）

◎以下に該当する方は接種できません。ご確認をお願いします。

- ・ 2才未満の小児
 - ・ 37.5度以上の発熱や、中等度または重度の急性疾患に罹っている方
 - ・ 鼻から噴霧するので、風邪をひいて鼻水が出ている・鼻詰まりが酷いときは延期します。
 - ・ コントロールされていない気管支喘息がある方、数ヶ月以内に重症の発作があった方
- ※気管支喘息とワクチンの副反応について、を参照
- ・ アスピリンを投与中（川崎病、心臓病など）の方
 - ・ 免疫力が低下している方（免疫抑制剤の使用など）
 - ・ 慢性疾患のある方（心疾患、肝疾患、腎疾患、喘息、糖尿病、貧血、嚥下困難や呼吸障害を伴う神経疾患など）
 - ・ 卵、ゼラチン、ゲンタマイシン、アルギニン、インフルエンザワクチンに対して重篤なアレルギー反応を起こしたことがある方
 - ・ 人工内耳を使用している方
 - ・ 脳脊髄液と口、鼻、耳、または頭蓋骨内の他の場所との間に漏れがある方
 - ・ 妊娠中・授乳中の方

※気管支喘息とワクチンの副反応について

- ・フルミストの接種によって気管支喘息発作が起きるかどうかについては、国や機関によって見解が異なっています。重症の気管支喘息がある方、最近発作があった方を接種禁忌としている国もあれば、関連なしとして接種している国もあります。
- ・日本の添付文書には「重度の喘息を有する者又は喘鳴の症状を呈する者」では注意するように記載されていますが、定期薬などでしっかりと発作が予防されていて、接種時に症状がない方については特に記載がありません。
- ・実際にインフルエンザに罹ってしまうと気管支喘息発作を起こすことがあるので、ワクチンによる予防は重要ですが、定期薬などで喘息を治療中の方で、最近重症の発作で入院した、風邪をひくと軽い発作を起こしてしまうなど、発作を起こしやすい状態の方は、注射のワクチンを選択した方が無難かもしれません。判断に悩む場合は主治医の先生とご相談ください。

接種前の注意

接種前に抗インフルエンザ薬を投与されている場合は、効果が減弱するため接種できません。

該当する場合は、予約の延期をお願いします。

タミフル：48時間以内

リレンザ：48時間以内

ラピアクタ：5日以内

ゾフルーザ：17日以内

接種後の注意

- ・接種後、約1週間はワクチンウイルスが排出されます。ワクチン接種禁忌に該当するような、免疫不全者（免疫抑制剤を使用している、悪性腫瘍があるなど）との接触は避けてください。
- ・接種後、2週間以内に抗インフルエンザ薬（タミフルなど）を服用すると、ワクチンの効果が減弱する可能性があります。
- ・微熱や鼻閉などの副反応がある時に、抗原検査を行うと陽性になることがあります。